

「教育実習体験レポート」

[私立中学・高等学校 公民]

私の母校での 3 週間の教育実習は、不安や戸惑いから始まり、最後には涙が出るほどの感情に動かされる、言葉では表しがたい、とても充実した日々であった。

実習 1 週目は、授業見学が中心となった。様々な先生方の授業見学をしていく中で、新しい学びがたくさんあり、吸収する毎日だった。担当クラスでは、生徒との関係性が大事だと思い、自分から積極的に話しかけた。生徒全員と喋り、1人1人の特徴やキャラクターを出来るだけ知る努力をした。部活動にも積極的に参加し、教員の 1 日の生活に慣れるので精一杯だった。

実習 2 週目は、実際に自分の実習授業が始まった。そのため、教材研究に追われる慌たらしい日々になっていった。今回担当した現代社会という科目は、私自身初めて勉強する範囲ばかりで、自分自身が理解するのにとても時間がかかった。自分が理解したことをわかりやすく伝える、という教師にとって当たり前のことが、どれだけ難しいことなのか、実感した。実習 3 週目は、ほとんど毎日が実習授業だった。緊張のせいか早口になり授業が早く終わってしまう。あれもこれも言わないといけないと自分で自分を縛り、思考が停止し授業を止めてしまう。説明が単調すぎる。などうまくいかないことの連続であった。授業を行い、指導教員の方からフィードバックをもらい、次の授業に生かす。そしてまた課題が出る、その繰り返しであった。正直に言うと、実習授業を重ねていくうちに、どんどん良くなっていったかという、そうではない。というのも授業の技術面に関しては、ほとんどが改善出来ないまま終わってしまったからだ。しかし、うまくいかない、出来ないことに対して悔しいという気持ちがある以上、全てが伸び代だととらえ、実習を終え、努力しようと思決意した。また、この実習を通して私が 1 番感じたものがある。それは人の優しさだ。授業中に頷きながら聞いてくれる生徒はもちろん。授業後に話しかけてきてくれる生徒。寝たことを謝ってきてくれる生徒。感想を伝えてくれる生徒。自分のことで精一杯にもかかわらず、日々応援し励ましてくれる、実習生の同期。そしてなにより、私に関わってくださった先生方。お忙しい中、自分の時間を削ってまで毎日毎日丁寧なご指導をしてくださる姿を見て、私の中で何か感じるものがあった。そしてそういう思いは、真剣であればあるほど感じるし伝わるのだということも学んだ。さらにいつか私もという、思ってもいなかった感情が芽生えた。

授業こそうまくいかなかったものの、このような感情は得ようとして得られるものではないと思う。そう考えるならば、この実習は次につながるとても有意義なものになった。3 週間本当に様々な人に助けられ、終えることができた。この感謝の気持ちを忘れず、がむしゃらに努力し、この先教員を目指したい。